



2015.2.1

2月ちとせだより

神戸YMCAちとせ幼稚園

今年度も残すところあと2ヶ月足らずとなりました。幼稚園ではこの時期、子どもたち同士がお互いの名前を呼び合う声为本当によく聞かれます。幼稚園で友だちと一緒に遊ぶことが楽しくて仕方がない子どもたちの声です。子どもたち自身は意識していないでしょうが、お互いを尊重しあう関係がやはり一番心地よいということ、体験を通して感じているのでしょうか。そしてこのような体験を通して、人間そのものに対する基本的信頼感も育まれていくのではないのでしょうか。

子ども同士が自由に関わることが許された「こどもの世界」がどんどん失われていくにつれ、子どもたちの生活は、大人が管理し指導する時間がどんどん増えてきています。そこでは、「仲良くしましょう」「喧嘩はいけません」「静かにしましょう」「自然を大切にしましょう」といった既存の価値観やルールが示され、それに従うことが求められ、それに従っていれば良い子とされます。

規律や統率を重視して、子どもたちの行動を管理していくことも、ある大人の目には「よく躪けられている」と映るかも知れませんが、子どもの心が本当に育っているかどうかは分かりません。指示に従わなければ叱責を受けるという環境下で育つのは、指示に従った行動だけであって、自分自身で考えて、その場面に相応しい行動する心が育つわけではありません。

幼児期の成長に必要なことは大人が指示して形を整えることではなく、「優しくする心、正直な心、がんばる心、大切に思う心」といったすべての行動の基礎となる豊かな心が育つ、豊かな環境の中での豊かな体験なのです。最後に、ご存知の方もいらっしゃるかも知れませんが、YMCAの先輩が訳し、YMCAで長く伝え続けられている詩をご紹介します。

「アメリカインディアンの教え」

子どもたちはこうして生き方を学びます。

批判ばかり受けて育った子は、非難ばかりします。

敵意にみちた中で育った子は、だれとでも戦います。

ひやかしを受けて育った子は、はにかみ屋になります。

ねたみを受けて育った子は、いつも悪いことをしているような気持ちになります。

心が寛大な人の中で育った子は、がまん強くなります。

はげましを受けて育った子は、自信を持ちます。

ほめられる中で育った子は、いつも感謝することを知ります。

公明正大な中で育った子は、正義心を持ちます。

思いやりのある中で育った子は、信仰心を持ちます。

人に認めてもらえる中で育った子は、自分を大事にします。

仲間の愛の中で育った子は、世界に愛を見つけます。

Dorothy Law Nolte

作・ドロシー・ロー・ノルト/訳・吉永 宏

年主題 「あふれる愛 - これからもともに - 」

2月主題 「なかまと心あわせて」

聖句 “あなたがたは、もっと大きな賜物を受けるよう熱心に努めなさい。”

(コリントの信徒への手紙 12-31)